

良 い 街

MOTOSU
good
things



FEATURE#03 Neo Woodsの木製品



MOTOSU
HITO/MONO/KOTO

FEATURE#04 伊藤 維

本巢市の
ヒト・モノ・コト

ヒト、モノ、コトが「良い街」をつくる。
生き生きと暮らすヒト、想いを込めてつくられたモノ、
新しくてわくわくするコトをお届けします。



[2022.03]
vol.02

良い街 Vol.02 2022.3発行 発行 = 本巢市役所 秘書広報課 〒501-1292 岐阜県本巢市文殊324 TEL = 0581-34-5040 編集・デザイン = 株式会社リトルクリエイティブセンター

もっと知りたい

本巢の魅力

-MOTOSU no MIRYOKU-

01 本巢市オリジナルの歌で、手洗いの基本を楽しくマスター



市公式マスコットキャラクター「もとまる」の手洗い歌「もとまるウオッシュュ!」がリリースされ、感染症対策の一助となっています。本巢市ゆかりのシンガーソングライターMEGAHORN(メガホーン)さんが作詞、作曲、歌を担当。歌では「子どもたちもしっかりと手洗いをできるように」と思わず踊りたくなるような軽快なリズムに乗せて、手のひらと甲、指の間や手首を洗う正しい手洗いの方法を伝えています。YouTube本巢市公式チャンネルで配信中。

02 東海地方最大級の古墳群「船来山古墳群」



本巢市と岐阜市にまたがる東西約2km、南北約600mの山中に広がる船来山古墳群。3~7世紀に築造され、東海地方最大級の290基の古墳が確認されています。内部が赤く塗装された石室をもつ「赤彩古墳」は、県内5基のうち3基が同古墳群で見つかり、市では春と秋に特別公開しています。2019年2月には国史跡に指定され、地元有志のボランティアや子ども学芸員たちが中心となって、船来山古墳群の魅力を市内外に発信しています。

\\ いいもの、そろってます。 /

本巢市のふるさと納税

毎年、全国から多くの寄付が寄せられる本巢市のふるさと納税。食料品や日用品、木製品など、魅力的な返礼品がそろっています。



富有柿

岐阜県発祥で柿の王様と称される甘柿の代表品種。果肉は柔らかく、甘みが強いのが特徴です。本巢市は全国有数の産地で、秋になると市内のあちこちで橙色の果実がたわわに実る風景がまちの風物詩となっています。

はちみつ

近代養蜂発祥の地であり、養蜂業が盛んな岐阜県。市内の工場では、「安全・安心」で高品質な蜂蜜製品を製造しています。養蜂家が心を込めて採集したはちみつをぜひ味わってください。



詳細はこちらをご覧ください >

本巢市 ふるさと納税 >



数学問題

VOL.02

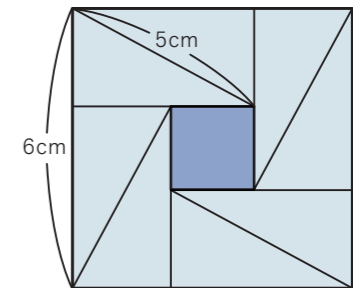
楽しみながら、考える力をUP↑

日本数学の父「高木貞治博士」の出身地にちなみ「数学のまちづくり」を進めている本巢市。数学の面白さに没り、楽しみながら「論理的な思考」を高める様々な取り組みをしています。論理的な思考は、的確な判断や表現力、説得力に直結し、人生を幸せにたくましく生き抜くために必要な力です。このコーナーでは、本巢市が実施している「算数・数学甲子園」の過去問をご紹介します。ぜひチャレンジしてください!

Question

1辺が6cmの正方形の中に、斜辺が5cmの合同な8個の直角三角形を図のように並べました。真ん中の色のついた正方形の面積を求めましょう。

第24回(2021年)出題



答えは
市HPをチェック!



FEATURE

#04

本巢市の
ヒト・モノ・コト

NAME

伊藤 維 / ITO tamotsu

CATEGORY



ヒト



モノ



コト

NOTE

一級建築士

グローバルな経験を活かし、ローカルを育む。

2020年、本巢市出身の建築家、伊藤維さんが岐阜市のビルの一角に「伊藤維建築設計事務所」を移転しました。幼い頃から間取りを書くことが好きだった伊藤さん。しかし、当時はまだ建築家は遠い存在で、高校時代に建築雑誌を読んでいた。それが仕事になったらいいなあと。周りの応援にも背中を押されました。

卒業後は同級生の多くが大学院へ進む中、「現場でより実践的に建築に携わりたい」と、都内の建築設計事務所へ就職。全国プロジェクトに関わり、建築の醍醐味に気がつきます。それは、さまざまな分野の人や地域と関わりあえる仕事だということ。例えば、大阪の保育園の建設では、揖斐川町の材木屋が関わっていて、故郷の岐阜と繋がる場面も。一つの建物をつくる過程で、さまざまな人や地域が交錯するおもしろさを実感した6年の社会人経験を経て、「世界中から人が集まる環境で、グローバルを知ると同時に、多様なローカルを知りたい」と、2014年にアメリカの大学院へ留学します。修士設計では、知識と経験を総動員し、本巢市で閉鎖されていた「リバーサイドモール」を、地域資源とグローバルなネットワークが交わる地域拠点に再生する作品を発表。世界で活躍しながらも、伊藤さんの関心は故郷へ、ローカルへと注がれていました。そして、3年間助手を勤め



たスイスの大学では、「林業・森と建築」をテーマに白川町を題材として、学生を連れて現地で提案したり、岐阜県内各地で交流の場をつくるなど、グローバルと岐阜のローカルをダイレクトに繋げました。

「今の好奇心を大切に、いろんな文化や価値観に触れてものを作れたらおもしろいだろう。そして、喜んでほしい人の顔が見える働き方がしたい。それは、地縁のある岐阜で実現できそうだし、Uターンを決めました」。実際に地元本巢市の友人から依頼を受けることも。農家を営む同級生の依頼で設計した「いちごハウス」には、古いビニールハウスの鉄骨を再利用し、ユニークな作業場兼直売所が完成。喫茶店を放課後等デイサービスにリノベーションするプロジェクトも手掛けました。「道行く人が良い風景になったと感じたり、利用する人の毎日が快適になったり、それが波及してまちの暮らしが楽しくなる建築をつくりたい」。伊藤さんのグローバルな経験に基づく建築が、ローカルを豊かに育みます。



PROFILE

1985年本巢市生まれ。高校時代までを本巢市で過ごし、2008年東京大学工学部建築学科卒業後、東京都内の建築設計事務所にて住宅や公共施設などを主任担当。2014年ハーバードデザイン大学院に留学。スイス連邦工科大学チューリッヒ校建築学科助手を経て、帰国。2020年岐阜市に伊藤維建築設計事務所を開設(移転)。

FEATURE

#03

本巢市の
ヒト・モノ・コト

NAME

Neo Woodsの木製品

CATEGORY



ヒト



モノ



コト

NOTE

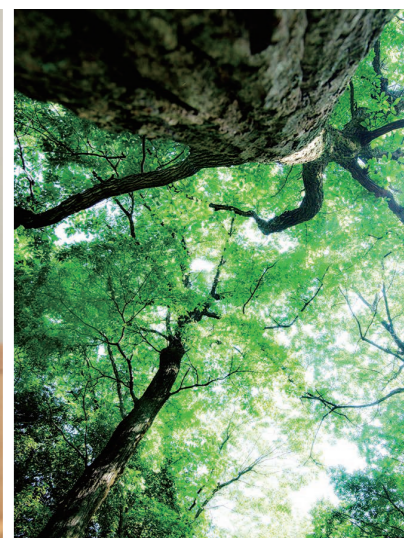
木製品



DATA

寄木の積木木箱入り 13,200円(税込)、
Korobox 積木入り(ナチュラル) 49,500円
(税込)、森のどうぶつつきみ 13,200円(税込)。

—
<https://www.oakv.co.jp>

根尾の森から、
日本の林業への挑戦。

面積の約9割を森林が占める本巢市。特に、北部の根尾地域には豊かな森林が広がります。そんな「根尾の森」の資源を活かし、ものづくりに取り組んでいるのが「Neo Woods 根尾の広葉樹活用プロジェクト」です。発起人は高山市の木工房「オークヴィレッジ株式会社」の佐々木一弘さん。「オークヴィレッジでは日本の木の文化を大切にしている、国産材にこだわったものづくりをしているんですよ」。日本は世界有数の森林国。けれども現在、価格の安い外材に押され、日本の木材自給率は4割程度です。特に建築用の針葉樹に対し、広葉樹は一部を除いてチップ原料などとして安く取り引きされています。豊かな森に囲まれながら、それが生かされていない。この矛盾を何とかしたいと考えていた佐々木さんは、2015年、根尾の森と出会います。

根尾で育つ太さや樹形が良く、豊かな広葉樹を活用できないかという佐々木さんの考えに、本巢市で林業を営む「有田建設 根尾開発」の小澤建司さんも共鳴。小澤さんもまた、日本の林業に行き詰まりを感じていました。こうして、根尾の森を活用した試みは二人の出会いからほどなくしてスタート。しかし、道のりは決して平坦ではなく、大きく二つのハードルがありました。一つ目は、通常は使用されない夏に伐採する水分量の多い木材を利用できる技術を確認すること。二つ目

は、製品化できる木材の種類や形状などの細かな条件を、伐採する職人と共有すること。この二つのハードルを越える仕組みを確立させるまでには2年を要しました。

現在、根尾の森の木材は、オークヴィレッジの職人の手によって、さまざまな木製品へと形を変えています。代表的なアイテムが、12種類以上の樹種の木材でできた「寄木の積木」と、愛くるしい犬のおもちゃ箱に積木が入った「Korobox」です。「根尾の森にはブナやサワグルミをはじめ、多様な広葉樹が育ち、年々地形の状況で入手できる木材はさまざまです。我々は毎年森に足を運び、木材の個性を見極めて利用します。どこに根尾の木材を使うかはその時々で違うんですよ」。まさに「適材適所」の言葉通り、根尾の木材が活用されています。

Neo Woodsのこうした取り組みが評価され、2015年度にグッドデザイン賞を受賞。関係者からの注目を集めています。一方で、佐々木さんの口からは「まだまだこれから」という言葉が。「かつて日本では、身近な森の資源を使って、生活を営んできました。そんな日本の里山文化を大切にしながら、産業としても成り立たせ、私たちの活動が一つの見本となって、日本中に広がれば嬉しいです」。根尾の森から始まった挑戦が、これから日本の林業を変えようとしています。